

日頃の機会を活かし、人としての想いを語りかけよう

TV番組「激白！子供がグレた日 我が家の積み木くずし！」の中で、親子の気持ちのすれ違いが話題になっていた。

見終わって、先日のあるメル友とのメールのやり取りを思い出した。

【 先日哀しい出来事がありました。

町内に知的障害者と思われる明るく気さくな女性がおおり、道で会うと必ず挨拶を交わしていました。

空き缶を入れるかごを見ていた彼女に、中学生の娘達が彼女をからかう行動をしたのです。

娘たちは、おふざけでやったと言っておりましたが、私は、がっかりしました。

「同じような事を他人にされたらどう思うか？考えてみて！。お母さんは、凄く悲しく思うし残念に思う。」

彼女は、望んで障害を持ったわけでもなく、偶然にそうなってしまった事や、事故や病気で突然、あなたたちも障害を持つかもしれない事など色々な話があった事を娘達に話しているうちに、悔しいのか、辛いのか、悲しいのか分からないけど涙が出てきてしまいました。

私の話を神妙に聞いていた娘たちは、「もうしない」と言っていたけど、ちょっと気持ちが沈んじゃいました。

でも、きっと、彼女たちは分かってくれたと思います。

みんな一生懸命に生きている、生かされている事を少しでも感じてくれればいいのですがね。】

次のように返信した。

【 あなたのよう機会ある毎に、親としての想いを語りかけていくことが大事だと思いますよ。

我が子であっても、人として生きていく知恵となるアドバイスを必要としている一人の人間ですものね。

ですから、あなたが涙を浮かべながらも親として娘さんたちに語りかけたその想いは、必ず伝わったと思いますよ。

親子であっても、単に叱ったり注意するだけでなく、また、単に親の思い伝えるだけでなく、共に語り合い、人間としてのあり方を子ども自身が気づき、育む機会をもつことが大事だと思いますよ。】

やはりこのメル友のように、日頃から機会ある毎に親（大人）が自らの想いをしっかりとまずは語りかけ、またそうなるためにも、大人になっても一人の人間として、常に人としてのあり方を戸惑いながらも考え続けている生きよう（様）を知ってもらふ勇気も必要な気がする。